掲載日:2018年08月18日,面名:A306X0,記事ID:K201808180A0A306X00007 (C)河北新報社

みやぎ防災円卓会議 仙台で例会

産学官民連携を

福和名大教授 南海トラフ巡り講演

いのちと地域を守る

東日本大震災の教訓伝承と防災啓発の強化を目指す連携組織「みやぎ防災・減災円卓会議」は17日、仙台市青葉区の河北新報社で例会を開き、名古屋大減災連携研究センター長の福和伸夫教授を招き、巨大災害警戒地域と震災被災地の連携の在り方などを討議した。

合同例会で講演する福和教授

円卓会議派生組織のみやぎ「災害とメディア」研究会との合同例会として開催し、両組織会員ら約60人が参加した。政府の中央防災会議で南海トラフ巨大地震対策の主査を務める福和氏が「南海トラフ巨大地震を前にした産学官民協働の試み」と題して講演した。

福和氏は「巨大災害に備え、産学官民とメディアの連携は重要だ。組織を超え、前向きな個人の集まりを継続してほしい。主役は市民ととらえ、地域愛を持った活動を望む」と訴えた。

東日本大震災の被災地に対しては「南海トラフは広域的に甚大な被害が出る懸念があり、外部から被災地への支援は期待できない。支援が届かない場面でも生かせる反省点や失敗談を伝えてほしい」と呼び掛けた。

出席者からは「連携のため多くの人を巻き込んでいく必要を感じた」「地域に関わる活動を積極的に進めたい」といった声が出た。